笑顔のひろば「第13号」
平成22年9月17日
発行
川崎協同病院広報委員会
川崎市川崎区桜本 2-1-5
TEL:044-299-4781(代)
FAX:044-299-4788

NST学習会・活動報告会開催

二〇一〇年七月八日、千鳥橋病院NST（医師・看護師・栄養士）チームによる『食べて治すNSTの運営と栄養療法』の学習会および活動報告が行われました。当院だけではなく、汐田総合病院や訪問看護ステーション、診療所、歯科クリニックから一二七名が参加し、他職種での意見交換がなされました。

NSTとは、『栄養サポートチーム』の略で、当院では、医師・看護師・栄養士・薬剤師・作業療法士・医療事務のメンバーで構成されています。栄養状態を評価し、安全で効率的な栄養療法が行われることを目標に活動しています。

NST普及の背景には2点あります。一つは、栄養状態が低下していると、十分な治療効果が得られないことがあります。栄養管理は治療の基盤としてかねてから重要視されてきました。基礎疾患に関係なく入院患者様の三～四割が低栄養に陥っていることが臨床の調査で明らかになっています。二つ目に、高齢化が進む社会において、入院患者様も高齢者が増えています。高齢の患者様は栄養状態が悪く、免疫機能が低下しています。基礎疾患の治療を始めてはみたものの、低栄養に陥っているため薬になかなか反応しない、効かない事態も多くなっています。基礎疾患を治して患者様が回復していく上で、リハビリテーション同様に栄養療法も非常に大切であるとの認識が広まりました。その実践の核となるNSTが注目されています。

千鳥橋病院は、二〇〇四年にNSTを発足し、栄養状態の管理や啓蒙活動が活発になされ、当院を含む他院からの見学の受け入れや講演依頼が相次ぐなど、最先端のNST活動が行われています。活動の一部として、リンクナースが絶食四日以上の患者の栄養方法を会議で検討され、その多くが中心静脈栄養法から経腸栄養法へ移行している現状が紹介されました。《食べて治す》をモットーにきざみ食から嚥下ソフト食への移行や嚥下体操への取り組みが行われています。透視下で食物の嚥下を評価し、その障害部位をはっきりさせ、経口摂取が困難であれば胃瘻による経腸栄養へ移行しています。また、会議や回診のほかランチミーティングやミニテストでの学習、NST主催ブートキャンプなど、今後のNST活動の発展に努めています。

学習会で印象に残ったことは、《薬や手術で治療し、栄養で治す》ということでした。消化管は生体防御機能を持った最大の免疫臓器であり、従って経腸栄養は免疫機能の維持、腸粘膜萎縮によるバクテリアル・トランスロケーション（腸管由来の感染症）の予防ができます。中心静脈栄養法に比べ、カテーテル感染による敗血症など重篤な合併症が少なく、長期的な管理が容易で、コストも安価です。経口・経腸栄養が人体にとって理想的な栄養法であることを学びました。

当院においても、摂食嚥下評価や、嚥下ソフト食の導入がされ、栄養補助食品も多数取り揃え、機能や嗜好を考慮した取り組みが行われています。

学習会に参加された皆さんからの意見・感想の一部を紹介します。高評価の意見が全体の七割を占めました。中心静脈栄養よりも経腸栄養のほうが優れているのが分かった、人が生きる上で《食べる》ということは重要であることが分かった、ソフト嚥下食の《見て楽しむ》は共感した。活動が学べてよかった、PEGの実際を知ることができた、車いす・ストレッチャー型の体重計がよかった、モチベーションがアップした、などがありました。その他、専門的で難しかった、もっと話を聞きたかった、トラブル時の対応や工夫点を知りたかった、などの意見も出されました。

学習会の開催が、NSTの活動を広めるきっかけになりました。一人でも多くの職員がNSTに興味を持ち、治療に良い影響を与えられるよう、チーム一丸となって、活動を進めていきたいと思います。

NSTチーム　北3リンクナース　明井暁子

NEW FACE

地域医療連携室だより

五月十七日より、地域医療連携室に異動になりました。入職し二十数年間医療事務として、病院の受付、病棟事務、薬局事務、診療所事務など色々な経験をさせて頂きました。

今回の異動先は今までの職種とは異なり、患者様の入院するベッドを医師や病棟師長と連携をとり日々調整をしていく仕事で、三ヶ月経った今も、電話の受信音がなると緊張しながら対応している状態で、家の電話の受信音にもハッとします。異動当初は、自分の入院ベッドを確保したくなるような気持ちでした。この職場にいる限り緊張という気持ちはとれませんが、患者様の要望や相談など安心して医療を受けられるよう地域の医療連携を深め強化し、そして患者さまを自分の親や家族のように思う心を忘れずに接していきたいと思っています。今後は、学習会や研修会などにも参加し不十分な穴を埋めていけたらと思っています。よろしくお願いします。

地域医療連携室　事務　柳井房子

原水爆禁止大会に参加して

研修医　佐野允哉

広島に滞在した三日間は快晴で真っ青な空からは憎らしいくらいに強い日差しが容赦なく降り注いでいた。広島には兄が住んでいる事もあって何度か訪れた事があり、今回の滞在で広島を訪れるのは五度目だった。その度に思うのだが、何となく大学時代から約十年住んだ鹿児島の町並みに似ている。広島市は太田川によって形成された日本でも有数の三角州地帯にあり、市内にはまだまだ路面電車が現役で活躍している。とまあ、市内を流れる大きな川と路面電車、湾岸地帯、暑い夏、そういった共通点が鹿児島を連想させるのかもしれないが…とにかく広島の夏は暑かった。

六五年前の八月六日、この街に対して人類史上初の核兵器による攻撃が行われた。それ以来広島は世界平和において特別な意味を持つ都市になっているが、それとは対照的に戦前の広島には第五師団司令部が設置されており、日清戦争時にはその戦略的利点から大本営や帝国議会が移されて一時的に首都として機能した。また隣接する呉軍港は東洋一の軍港・日本一の工廠として知られ、あの戦艦大和の建造なども行われた。

戦前の広島は軍事都市としての色彩が強かった。しかし現在では広島市市長は代々、世界各国が行う核実験に対して一つ残らず抗議文を送っており、世界一四三カ国三八八〇自治体から成る平和市長会議も広島市長の呼びかけではじまっているなど国際文化平和都市として世界に向けて核の廃絶や恒久平和を発信している。

今回の世界大会に参加してみて、昨年のオバマ大統領のプラハでの演説や五月に行われた核不拡散条約のニューヨークでの再検討会議などによって世界は核廃絶に向けて動きつつあるということを肌で感じた。だが、一方で核兵器を手に入れる事が出来たら即使用すると宣言しているテロ組織の存在や近年新たに核保有国になった国々の存在などまだまだ問題は山積みで、依然核抑止力論も根強い。

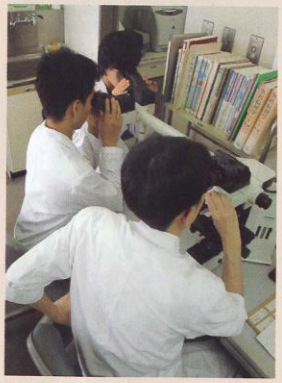
人類の誕生以来絶えず科学技術は進歩し続けてきている。一発で世界を破滅させる事が出来る核の技術も一方では現代人の生活に欠かせない電力を供給する技術にもなり得て、同じように生命科学においてもクローン技術や再生医療の技術はその有用性の一方で一歩間違えれば人類にとっての脅威ともなりうる。科学技術が今の状態のままでもうこれから全く進歩しないという事は考えにくく、今後も核に代わる脅威となりえる技術が開発されるかもしれないし、もう既に開発されているかもしれない。核兵器は人類にとって不要であるという事は今回参加させてもらったことで確信に変わった。だが、技術自体や兵器の存在に善悪を問うのではなく、自らを滅ぼす事さえできる力をいかにコントロールしていくかをもっと議論していかなくてはならないのではないかと感じた。

最後に今回広島に送り出して下さった職場の上司や先輩、同僚の皆様どうもありがとうございました。

2010年度　夏の高校生１日医師体験

毎年受け入れている高校生１日医師体験。今年も神奈川民医連の各事業所で行われました。

さていつも多数の申し込みをいただく本企画ですが、今年は定員70名を大きく超えて約90名。例年を大きく超える申し込みがありました。なるべく多くの人に参加してもらいたいと思い、急遽日数や人数を増やし、川崎協同病院では計5日間、18名を受け入れました。



最も人気のある企画は手術室見学です。やはりドラマなどで映ることが多いからでしょうか。手術室独特の手洗いも良い経験です。また、病理科で癌細胞を見るのも、人気の高い企画の一つです。その他、放射線科でMRIを体験してみたり、検査科でエコーをあてさせてもらったり、普段触ることのない医療機器に触れてみることによって、少しでも医療機関が身近に感じられたのではないでしょうか。

私たち神奈川民医連の事業所が１日医師体験を受け入れる目的は、医学部など、将来医療関係に進むことを考えている高校生を対象に、実際の医療現場を見てもらい、目指すモチベーションを高めてもらうことです。もしこの企画がきっかけになって医師になってくれたのなら、それ以上の喜びはありません。

もし医学部や医療系をお考えの方がいらっしゃいましたら、毎年夏と春に行っておりますので、ぜひおいで下さい。

医師事務室　会田佳成

七月初旬より、川崎協同病院の外来待合をはじめ、各フロアーに観葉植物が置かれるようになりました。今回、導入した観葉植物は環境に配慮したもので、エコロジーガーデンと呼ばれています。

エコロジーガーデンはCO2（二酸化炭素）やVOC（揮発性有機化物）の吸収に優れ、臭気の除去能力が高く、マイナスイオンの発生能力にも優れた観葉植物と活性炭や石灰岩を特殊加工した土壌を用いています。

エコロジーガーデンを取り入れた他の病院では「院内の臭いが無くなった」「空気がきれいになった」「緑があると心が安らぐ」などの意見が寄せられていると聞き、当院でも導入に踏み切りました。エコロジーガーデンの導入で空間的にはもちろんのこと、患者様や利用者の皆様の癒しに貢献できることを目指しています。今回の取組みをきっかけに少なからず、環境問題への意識付けも持てればとも考えております。

事務次長　田中忠雄

環境にやさしい緑化プロジェクト

院内緑化・エコロジーガーデンを導入しました。

エコロジーガーデン Q&A

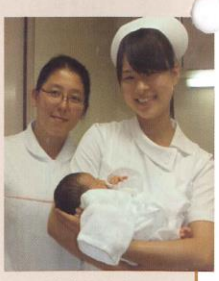
Q　お見舞いのお花は持ち込み禁止ですが、エコロジーガーデンは大丈夫なの？

A　エコロジーガーデンの観葉植物は環境改善能力に優れた活性炭と特殊な土を使用することにより空気浄化能力にすぐれ、感染などの危険もないものとなっています。また、契約した造園業者が定期的に手入れを行っています。

Q　お金は大丈夫なの？

A　エコロジーガーデンは病院の緑化活動の趣旨に賛同頂いた、企業からの賛同金にて管理運営されています。病院ではお金はだしていません。

2010年度　夏の高校生１日看護体験



今年は例年に比べ連日暑い日が続いておりましたが、川崎協同病院の中でも高校生の“将来の夢への思い”が熱く感じられました。川崎協同病院への体験申し込みは69名、診療所への申し込みは20名で、全体で約90名近くの申し込みを頂きました。今回の夏の体験の特徴は何と言っても、病棟の看護体験の時間帯を午前中に変更したことです。前回までは午後に病棟体験を組んでいましたが、午後の時間帯が比較的落ち着いているためリアルな看護師の姿がなかなか見えないでいました。やはり看護師の一番動いている姿が見られるのは午前中に限ります！検温に一緒に回ったり、オムツ交換の様子を見学したり、シンプルに“いつも通りの看護師の仕事を見てもらう”それが目的でした。参加した高校生からは「初めはビックリしたけど、これが看護師の仕事なんだ！と思った。大変そうだけどますます頑張って看護師になろうと思った」という声も聞こえ、ホッとしております。

この間、社会人の方が看護学校受験を目指すパターンも増えてきております。社会情勢の影響で安定した看護職への転職を考える方が増えているようです。私たち川崎協同病院ではそんな社会人の方の１日看護体験の受け入れも行っております。

将来看護師を目指す高校生、これから看護の道へ進み始める社会人の方、看護師の働く姿を実際に見て、体験してみませんか？春・夏の体験に是非ご参加ください。

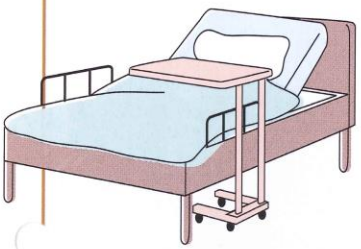
看護学生担当　宮下未希

INFORMATION

電動ベッド導入

2010年6月末日、協同病院の入院用ベッドがすべて電動ベッドになりました。

これまでのベッドは古いのはもちろんですが、高さが調節できない、頭の部分が上がらないため、患者さんの体格や病状に応じてベッドを準備するときには、患者さんにお願いしてベッドを交換させていただくことが日常でした。



すべてが電動ベッドに変わってからは、「とってもきれいになった。清潔感がある」「ベッドが低くなるので上がり降りが楽だ」と患者さんからの声が聞かれました。職員からも、「今まで行ってきたベッド交換の作業が減り、効率的」「ベッドの車輪の回りもいいので移動が楽になった」「ストッパーがかけやすく安全面でもよくなった」と感想が寄せられています。

副看護部長　遠藤さとみ

小児科外来の診療スタート

10月より新たに小児科外来がこどもクリニックから病院の中に移転します。病院の中で小児科外来を行う利点として、病気で来院するお子さんと予防接種や健診で来院するお子さんとの接触を分けることができたり、小児科だけに止まらないお子さんの健康問題についてスムーズに耳鼻科や外科、眼科、婦人科、泌尿器科など他科の先生と連携してみることができます。病院の中に入ることで診察への敷居が高くなったり、待ち時間が長くなることを不安に思う方もいらっしゃると思いますが、小児科の会計だけを他科とは別に行ったり携帯電話サービスを利用した順番をお知らせするような方法を検討するなど、今まで以上にかかりやすい小児科を目指していきたいと考えております。

以前よりこどもクリニックに来られている患者さんはもちろん、これからご利用される方もお子さんの体に関する心配事は何でも気軽にご相談ください。

小児科医師　高村彰夫

PACS導入

当院では本年度よりフジフィルム製ＰＡＣＳ「SYNAPSE」を導入しました。法人内の各院所を専用インターネット回線で接続して、一般撮影はもちろんＣＴ・ＭＲＩ等の画像を一元管理し、フィルムレス化することに成功しています。フィルムが無くなったことで関連する業務やそれに伴うスタッフの負担を大幅に減らすことが出来ました。また画像が見たい時にいつでも見られるので、診療の上でも大いに役立っています。紹介の資料も従来かさばるフィルムを何枚も用意しましたが、ＣＤ１枚で済むようになりました。患者様が持参するのも楽になります。専用の機器が無くても一般的なパソコンで閲覧することが出来ますので、機会があれば是非お試しください。

放射線科科長　山本晋二郎

編集後記

今年の夏は、局地的に降るゲリラ豪雨と、異常な猛暑に悩まされました。市内にある救急車がフル稼働し、一時パンク状態に陥ったほど、熱中症などで搬送された人は川崎市でも昨年比二倍以上の数に上ったそうです。搬送された人の多くは、屋外での作業中や外出中に発症していますが、当院に搬送された方の中には屋内で生活していて具合が悪くなるケースもありました。高齢者に限らず若者までもクーラーでの調整ができなかったり、水分補給がうまくいかないことで発症することがあり生活の見守りが必要であることは教訓です。

当院でもこの夏は予定電力を超え、水光熱費が予算を超えるという事態に。クーラーだけの温度調整は大変で耐熱シールを病室などの窓ガラスに張り、暑さ対策の工夫をしました。

そんな中で患者さんとのささやかな夏まつり。まだ暑さが残る時間帯でしたが、時折吹く風にひとときの涼を感じ、参加された患者さんやこどもたちはヨーヨー釣りなどで、つかの間の時を楽しみました。

そんな夏は終わり、秋を迎えます。

十月一日にはリニューアルされた外来での、小児科の診療がスタートです。きれいになったトイレ、多くの方のご協力により実現したエコガーデンの緑は、これまでの外来の風景を明るいものにしてくれています。地域の皆様の要求にこたえ、子供から高齢の方までかかりやすい外来診療と、健康診断などの予防医療の充実をはかり、これから来る寒い季節に向かっていきたいものです。

看護部長　八木美智子